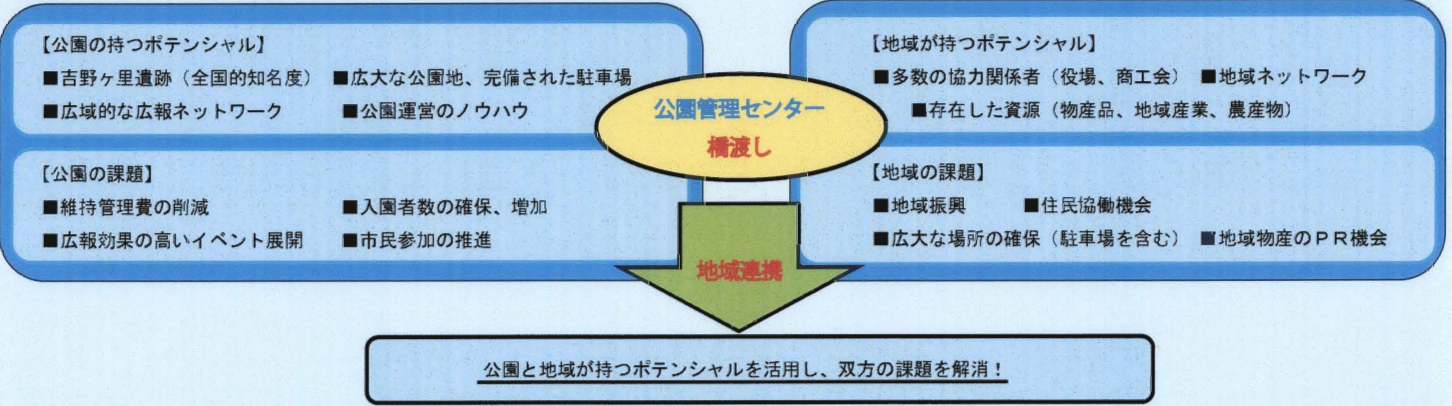


### I. 地域連携の取組みの背景

- 吉野ヶ里歴史公園では、全国的知名度を有する吉野ヶ里遺跡を生かした各種イベントや花修景を中心に取り組んでいます。しかしながら、開園一年目（平成13年度）には68万人であった入園者が平成16年度には41万人台に落ち込み頭打ちの傾向にあった。
- ここ数年イベント・広報予算も含め維持管理費の一層の削減が求められる中、利用促進に向けた新たな対策が必要となってきた。
- 一方、佐賀県への観光客入込数について平成15年をピークにこの数年横ばいであり、知名度が高い本公園を核とした観光客誘致、地域活性化への期待が一層高まっている。
- そこで、公園維持管理運営受託者（以下、「公園管理センター」という。）が橋渡し（コーディネート）をして、公園や地域のポテンシャルを生かした各種協働イベントを開催・誘致し、新たな公園や地域の賑わいを創出する取組みを開始することとした。



### II. 軽トラ市の取組みの経緯

- 平成21年9月、公園の最寄駅JR「吉野ヶ里公園駅」に地域振興のためのアクセス拡大として特急列車停車を求めて官民一体の組織「特急停車推進協議会」を吉野ヶ里町、吉野ヶ里町商工会、吉野ヶ里歴史公園、NPO等を構成員として発足。
- 同協議会の趣旨に基づき、特急停車によるJRの利益確保方策として当公園での大規模露天市開催の提案が挙がる。

吉野ヶ里夢ロマン軽トラ市の開催

【吉野ヶ里と「市（いち）」の賑わい】  
かつて吉野ヶ里では弥生時代に広場において市が開かれ、国内外から人及び交易品の流通が行われていた。



- 公園管理センターは公園を核とした当該イベントの開催に向け、吉野ヶ里町、吉野ヶ里商工会及び公園事務所等への提案や調整、申請等により公園内での開催を実現させた。
- 同じく、繁忙期においては公園駐車場の収容量が不足することが想定されたため、主催者による周辺駐車場の確保や誘導、周辺駐車場からのシャトルバス運行による利用者サービスの提供等、総合的な駐車場運営の提案及び助言を行う。

### III. 吉野ヶ里夢ロマン軽トラ市

- 開催日時： 毎月第一日曜日 8:00～11:30（平成21年度 3月～）
- 主催： 吉野ヶ里夢ロマン軽トラ市実行委員会（吉野ヶ里町商工会・吉野ヶ里町・吉野ヶ里公園管理センター）
- 内容： 吉野ヶ里歴史公園内（東口エントランス及び東口駐車場）において軽車両100台以上が一堂に集まり、地元吉野ヶ里町をはじめとした佐賀県及び福岡県から出店した屋外店舗による食料品や加工品を販売する野外物産市及び各種イベントを開催。開催場所は開始当初から平成23年度まではJR吉野ヶ里公園駅から公園までの農道及び公園園地、平成24年度以降は現在の東口大型駐車場及び公園園地での開催。



運営維持管理業務受託者：吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体  
公園管理者：国土交通省九州地方整備局海の中道海浜公園事務所

【吉野ヶ里歴史公園】

- 我が国固有の優れた文化財産である吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図るために整備された都市公園。
  - 総面積 117ha の区域があり、映像施設やレストランがある「入口ゾーン」、階層が高い人が暮らした南内郭やまつりごとを司った北内郭からなる「環境集落ゾーン」、「古代の原ゾーン」、「古代の森ゾーン」からなる。
- ※吉野ヶ里遺跡：弥生時代（紀元前 5C～紀元 3C）の 700 年にわたるすべての期間の遺物、遺構が発見された学術的価値が高い日本最大級の遺跡。



IV. 協働に活かされた公園運営のノウハウ

軽トラ市の計画及び運営は基本的には主催者側が中心となって担い、管理センターは以下の項目に関して実施、意見具申や協力を行う。

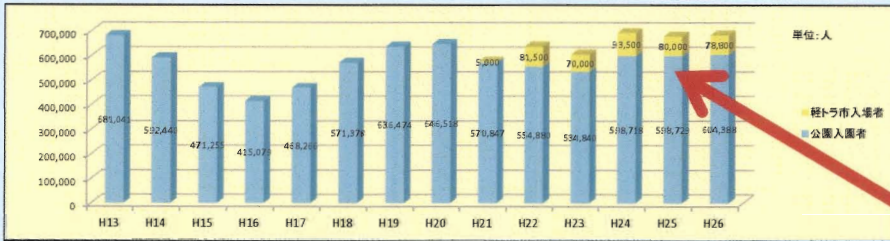
- 計画参画 ……実行委員会等の会議に参加し、実施内容や準備・実施期間中の運営体制等に関する意見具申を行う。
- 準備 ……人的協力や資材貸与の他、開園時間の延長や公園敷地の占用に係る申請等の協力及び助言を行う。
- 運営 ……早朝開園への対応を行うとともに、会場内における迷子、落し物、案内放送等の対応を行う。
- 安全 ……場内誘導員及び交通整理員の配置を行う。
- 広報 ……公園情報誌（ひみか通信 58 万部発行 ×3 回【福岡・佐賀県の観光施設及び小中学校に広域的に配布】）への掲載。公園HPへの情報掲載によるイベント告知等、管理センターが有する広報力を活用して情報発信。
- 経費 ……イベント運営経費（人件費、交通整理員、会場占用料等）の一部を負担し主催者へ協力することで、組織ブランドの向上に寄与。



V. 取組みによる 3 つの効果

1) 公園への効果

- 公園利用者数の確保・増加（公園入園者の確保への貢献と併せ PR にも繋がっている）
  - ◆維持管理費削減下において、イベント等の開催費用の確保が段々と厳しくなる中、公園イベントの新たな核として年間約 60 万人の入園者数確保に貢献。
  - （※）平成 24 年度には、過去最高の入園者数（約 69 万人）を記録。



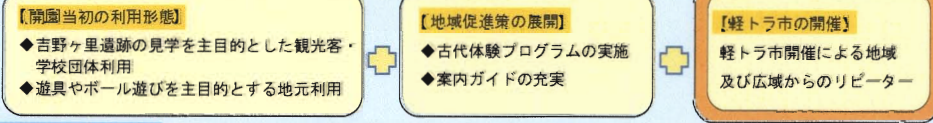
「吉野ヶ里」入園67万人

13年度猛暑でも過ぎ去る番目

佐賀新聞 2014.04.16

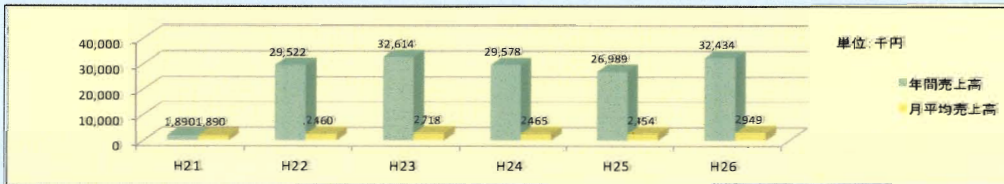
桜マラソン効果 4月は16%増

■公園の新たな利用形態の構築



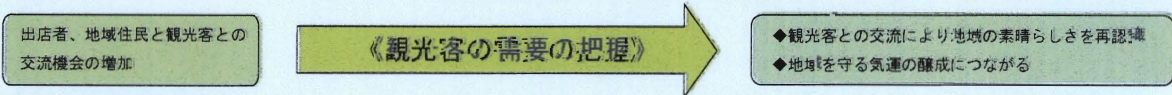
2) 地域への効果

- 公園との一体広報による認知度向上
  - ◆管理センターが有するネットワークを駆使した広報活動により、軽トラ市の認知度が大幅に向上した。⇒地元吉野ヶ里町はもちろん周辺自治体からの来園、さらには他県ナンバー車両の来園が増加・拡大。
  - ◆公園の広報誌やHPを利用した一体広報を行うことにより、主催者単独での広報と比べて経費節減、費用対効果の増につながっている。
- 経済効果（地元への経済波及に繋がっている）
  - ◆軽トラ市来場者数の増加は、地元出店者の売上向上に大きく寄与しているとともに、軽トラ市来場者の往路復路での地域施設等への立ち寄り効果もあり、周辺地域から感謝の声あり。



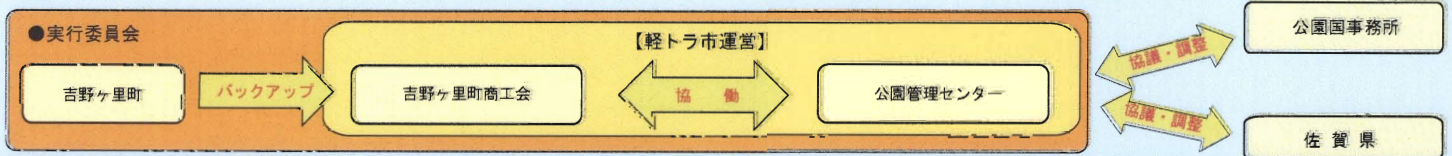
■地元住民と観光客との交流

- ◆軽トラ市への出店がアンテナショップとしての効果を発揮。軽トラ市を通じて知った商品やサービスを求めて観光客が増加。それに伴い地域の消費活動も活性化。



3) 公園・地域双方への効果

- 地域ネットワークの強化
  - ◆公園・自治体・商工会といった多様な主体が協働して運営に取り組むことで、今や軽トラ市は公園内のイベントから地域おこしの看板イベントへと成長。



共同企業体  
構成団体

Parks Japan F.®



株式会社 葉隠緑化建設

（一財）公園財団、JR九州コンサルタンツ（株）、（株）葉隠緑化建設